

## 目次

- (1) OFIXからのお知らせ
  - 大阪府堺留学生会館オリオン寮10月入居者募集
- (2) 事業報告
  - 外国人のための防災訓練実施
- (3) インターン報告
  - さよならではなく、uz redz ē šanos ウズ・レゼーシャノッス
- (4) オリオン寮生投稿コーナー
  - オリオン寮交流奨励事業奨励生活動報告
- (5) 特集 地域に根差した外国人支援
  - NIEFAを舞台に主役はあなた!
- (6) 大阪府外国人情報コーナー
  - 帰国する前に
- (7) OFIX国際交流員レポート
  - いいプレゼンの仕方2

## (1) OFIXからのお知らせ

### ■ 大阪府堺留学生会館オリオン寮10月入居者募集

当財団が運営しています「大阪府堺留学生会館オリオン寮」では、10月からの入居者を募集しています。今回募集するのは、男子8室、女子5室(8月13日現在)です。

オリオン寮には中国、韓国、ベトナム、フランス、ドイツ等12の国と地域からの留学生が暮らしています。オリオン寮は単に宿舍としてだけでなく、留学生に役に立つイベントを開催しています。安心して日本で暮らすための防災訓練、就職活動に役に立つキャリアカウンセリングや就職セミナー、企業交流会のほか、地域の方や寮生同士の交流を深めるための地域交流会等があります。

また、オリオン寮生のなかには協賛を得た企業と交流し、寮費支援を受けている奨励生がいます。今回はその奨励生達の感想も2～3頁に掲載していますので、参考にしてください。



## (2) 事業報告

### ■ 外国人のための防災訓練実施(大阪府国際交流財団との共催事業)

(公財)とよなか国際交流協会 事業課 主任 山本 愛

(公財)とよなか国際交流協会は、7月12日(金)14時～16時、とよなか国際交流センターにおいて「外国人のための防災訓練」を(公財)大阪府国際交流財団との共催で実施しました。協会職員、ボランティアを含む47人(内外国人は10カ国、24人)が参加。豊中市危機管理室及び北消防署の協力のもと、災害時に必要な情報や備えについての講義、実際の避難訓練及び消火器を使った消火訓練や非常食体験を、通訳(8言語)をつけて実施しました。

参加者には、当協会が作成した多言語の「防災カード」(名前や住所、言語などを書き込めるようになっている携帯用カード)や、多言語防災ガイド、及び非常食等を配布。参加した韓国女性「地震や火事はあまり自分に関係ないと思っていたが、いざという時に命を守るため、このような訓練は

とても重要だと思った。家に帰って、子どもたちとも避難方法や備えについて話し合いたい」と語っていました。



### (3) インターン報告

#### ■ さよならではなく、ウズ・レゼーシャノッスuz redz ē šanos

北欧にあるラトビアという国の首都リーガの出身で、ザハラカ・シグネと申します。ラトビア大学で二年半日本語を専攻して、半年前に念願が叶い、ずっと憧れていた日本へ留学生として来られることになりました。関西外国語大学で一学期を終えてから、今年の夏の間（6月から8月まで）大阪府国際交流財団（OFIX）において、研修を受けることになりました。たった3か月の短い間でしたが、OFIXでのインターンシップを通じて自分の仕事に誇りを持って、毎日を楽しむことの重要性が分かって来ました。皆さんのお陰で必ず将来役に立つ、一生に一度の体験を得ることができて、追い求める勇氣さえあれば、チャンスは無限にあるということをもっと知りました。こんな大切な事を教えてくれたOFIXの職員の方々に心の底から感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

初めは、異文化の職場で働くことが少し不安でしたが、皆さんに温かく迎えられるので、最初の週を過ごしたら、OFIXでもう長い間勤めているというか、日本でラトビアの家族以外にももう一つの家族ができたという気がしました。インターンシップの間に色々な新しい体験ができ、本当に勉強になりました。最初から、外国人情報コーナーでアクセス地図の更

#### ザハラカ・シグネ（関西外国語大学 留学生別科）

新、オリオン寮生向けのお知らせの英訳、財団のHP編集等の大事なことを任されたり、OFIXが実施しているフランスのエセック経済商科大学院大学生の研修受入事業や日韓高校生交流事業のような事業に参加したりして、日本のビジネスマナーを学びました。更に将来のキャリアに関する助言と多くの激励をもらい、総領事館の訪問にまで同行できて、他では経験できない貴重な体験となりました。その他にも、国際理解教育のサポーターとして活動したり、OFIXニュースにも自国の文化を紹介する記事を書きました。

時間はあっという間に経ってしまったけれども、充実し、一生忘れられない体験になったと思います。私もいつか皆さんのような立派な社会人になれるといいですが・・・

研修期間の終りが来ましたが、大学を卒業した後、国際関係の分野で頑張りたいと思っていますので、さよならで

ウズ・レゼーシャノッスはなく、ラトビア語の「uz redz ē šanos」—必ずまた会える機会があることを表すお別れの言葉でOFIXから旅立ちます。皆さん、この3ヶ月間、誠にありがとうございました。

### (4) オリオン寮生投稿コーナー

#### ■ オリオン寮交流奨励事業奨励生活動報告

大阪府国際交流財団では、大阪府堺留学生会館オリオン寮に入寮する留学生に対し、日本の企業との交流機会の提供や寮費の一部を支援する「大阪府堺留学生会館オリオン寮交流奨励事業」を実施しています。

このたび、本事業の奨励生に選ばれ活動中の2名の方から、活動状況、今後の抱負や感想について下記のとおり投稿してもらいましたので、ご紹介します。

#### ○ 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科・緑地環境科学専攻博士後期課程 朴 秀日（パク スイル）さん

私は大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻 博士後期課程に在籍しており、主に緑地を基盤とする「将来に向けた環境共生型都市づくり計画」について研究を行っています。特に私は地方都市の神戸、大阪及び釜山を対象として地方都市のあり方について研究を行っていますが、今年の4月から堺留学生会館オリオン寮の奨励生に選抜され、シンコーマシントール株式会社の支援を受けて様々な経験をしています。とくにシンコーマシントール株式会社の海外のお客様とのふれあいや社内バーベキューパーティーなどに参加し、社員の方々ととても親しくなり、今まであまり経験したことがなかった分野において楽しく経験することができました。またインターンシップでは、母国の釜山及びまち

の文化・自然環境・都市の風景などを紹介し、よく知られていない地域の魅力・課題などについて社員の方々に紹介することができました。

自分にとって奨励生の経験というのは、単に大阪の企業が留学生への支援という意味だけでなく、自分の研究に関連させています。国を超え両都市のつながり及び絆の構築をすることにより、将来に向けた環境共生都市のための地方都市・まちづくりに互いの協力などができるよう、現在の様々な活動・経験として貴重な意味があるのではないかと考えています。これからも奨励生として多様な経験をしながらそれらを活かして将来にむけて両都市が協力・交流活動につなげるように頑張りたいと考えています。



## ○ 羽衣国際大学 産業社会学部4回生 張 伝智 (チョウ デンチ) さん

中国からの留学生張伝智です。4月1日からオリオン寮奨励生になりました。面接の日のことは今でも覚えています。とても緊張してめっちゃくちゃに答えました。落ちるかなと思いましたが、二日後に学校から合格の連絡が来ました。こういう面接で選ばれたことは初めてなのでとてもうれしいです。もちろん、奨励生になると責任と義務があります。

一つは毎月、シンコーマシツール株式会社の活動に一回参加することです。例えば、ウエルカムパーティや奨励生交付式やバーベキュー大会などです。初めて参加した時、恥ずかしくてあまり話せませんでした。二回目からだんだん社

長さんや社員の方々とも親しくなって、飲み会にもいきました。

もう一つは会社のインターンシップをやることです。インターンシップを通じて日本の会社の情報と雰囲気と仕事の流れがよくわかりました。今後の就職活動にとって大変参考となります。今後は他の奨励生と一緒に、残っている活動とインターンシップをしっかりとやります。最後にOFIXとシンコーマシツール株式会社に感謝します。おかげ様で日本の留学生生活が豊かになり、いい勉強となりました。ありがとうございます。

## (5) 特集 地域に根差した外国人支援

### ■ NIEFA を舞台に主役はあなた！

(特活) 寝屋川市国際交流協会 副会長 榎本 桂子

(特活) 寝屋川市国際交流協会 (NIEFA) は、2004年12月にNPO法人の認定を受けました。現在、260名の登録会員のほかにボランティア通訳、ホストファミリーの登録をさせていただいている皆さんと共に活動をしています。

合言葉は『NIEFA を舞台に主役はあなた!』です。



「外国人と交流する機会や、異文化に触れる機会を提供します。そして あなたの興味や得意なことを NIEFA で生かして輝いてください」というものです。

現在、毎週火曜日の昼と夜、外国人のための日本語教室を開催しています。講師は NIEFA の日本語講座を修了したボランティアの日本人スタッフ (講師) です。季節や、年度替わりの時期には学習者の数の変動はありますが、日本語講師と学習者の心のつながりは熱いものがあります。

また、「英語の絵本の読み聞かせ」は図書館と共催で毎月一回開催します。英語の“音”と目から子ども達の世界を広げようと、保護者同伴で幼稚園や小学校の低学年の子どもたちが毎回大勢参加しています。読み聞かせは外国人 (ネイティブに限らない) が行い、一時間の講座を日本語での説明や手遊びやゲームなどで子どもたちを退屈させない工夫もボランティアの腕のみせどころでしょう。

このように、できるだけ会員、市民の皆さんの参加で事業を進める意図は、NIEFA が目指す共生社会に向けて異文化理解や国際的な相互理解を自分ごとに捉え、理解を深めてもらうことが第一です。当然そのことによって 組織の裾野が広がると同時に、活動の力になると確信するからです。

本年7月には姉妹都市であるアメリカのニューポートニュ

ース市に青年、成人合同訪問団を派遣しました。NIEFA が次世代リーダー養成の一環として大事にしている事業です。青年団員は現地高校で自分たちの生活紹介や身近な出来事をパワーポイントを使い、英語によるプレゼンテーションを全員が行いました。現地高校生の反響は熱く、時間が足りないくらいでしたが、帰国後予定されている報告会での青年達の感想が楽しみです。ちなみに本年10月19日 (土) に寝屋川市駅前で開催されるイベント「新天地 in NEYAGAWA」は10年前の派遣青年が姉妹都市での交流体験を機に始めた街おこしイベントで、本年で9回目を迎えます。

昨今の寝屋川市は他市同様、企業に在籍する外国人を市内のあちらこちらで見かけるようになってきました。NIEFA は言葉の不自由な外国人とその家族、習慣の不慣れな人への応援のため通訳の派遣、資料の翻訳、交流会や講座 (例: お弁当づくり) などを定期的で開催しています。それらの過程で参加者同士がお互いの文化の違いを気付かされ、自分達の習慣に向かい合うなどの体験や発見が参加する皆さんの継続のエネルギーのように感じています。このような状況の中、昨年はOFIXからの受託事業として通訳ボランティア研修を開催しました。

OFIX からの助言を受けながら最近のニーズを参考に分野別での通訳を想定しての講座で、講師も異業種に渡りました。予想外に広い地域からの受講生を迎えることができた事、講座を期に NIEFA にとって新しい分野の方々とのパイプも結ばれたことは心強いことでありました。さらには、講座が長期に渡る事、各テーマが専門的である事などから、受講生に十分対応できる事務局体制に工夫を加える必要がありました。結果的にこれは広く他の組織と連携をしながら企画したひとつの成果になったと思っています。

NIEFA はこのようなボランティア活動等を見守りつつ、今後とも積極的に支援体制を作っていく努力をしていきたいと思っています。

